

横須賀人

横須賀の歴史再発見！

Powered by
歴史人
Yakasuka Jin
Vol.01

FREE
無料

幾度となく歴史の舞台となった横須賀

神話の最もドラマチックなシーンの舞台となった？

激動の鎌倉時代、北条氏と肩を並べた武将三浦氏とは何者なのか？

島崎藤村の名作に描かれた日本の『夜明け前』の横須賀とは？

ペリー来航だけじゃない、隠れた横須賀の歴史に迫る

さあ、先人たちの活躍を巡る旅に出よう。

「横須賀人」限定レシピ！

横須賀開国メシ

ペリーのおもてなし料理を再現アレンジ！

神話の時代から繰り返し歴史の舞台となってきた横須賀。
その魅力を再発見する旅に出よう。

古くは、『古事記』や『日本書紀』に書かれた
ヤマトタケルとその后オトタチバナヒメの伝説の舞台になった。
その後、鎌倉幕府では重要な役目を果たした
三浦氏の拠点として機能した後、
北条氏は海を挟んで房総半島の里見氏と対峙する。
ペリーがこの地を訪れたことにより、
幕末維新は幕を開ける。
富国強兵策を取る日本の原動力となったのは、
当時フランスの最新技術を移入して
横須賀に造られた造船所であった。
明治以降首都となった東京を
海からの侵入者から守るために、
数多くの砲台も造られた。
横須賀を舞台にした名曲をBGMに
海岸沿いの道を車で、または赤い電車にゆられて、
時には船に乗って、横須賀市内に点在する
歴史の舞台を巡ってみよう。

横須賀市

神奈川県南東部に位置し、
三浦半島の大部分を占めている横須賀市。
東京湾と相模湾という2つの海に囲まれた上に、山や川も多く、
様々な自然や絶景を楽しむことができる。
幕末に横須賀製鉄所(後の横須賀造船所)が造られて以降、
軍港の町となり、日本の中枢である江戸や東京を守ってきた。
古代の遺跡や中世三浦氏、北条氏にまつわる史跡に加えて
近代以降の軍事遺跡も数多く残っており、
歴史好きにとっては見どころ満載。

目次

4 ヤマトタケル伝説と伝承ゆかりの地
走水神社

6 武將三浦氏とは何者なのか？
横須賀“鎌倉”旅

8 時と海をこえて東西に分社
船で渡って願いを叶えるパワースポット
叶神社

10 北条水軍の城として築かれた
浦賀城

12 藤村の『夜明け前』から
横須賀を紐解く

14 偉人たちの足跡
幕末・明治の史跡を巡る

16 現代風アレンジ
地元食材を使った
横須賀開国メシ

18 横須賀市の国指定、県指定、
国登録文化財一覧



横須賀人

表紙場所 / 猿島

企画制作 / 歴史人編集部
協力 / 横須賀市
編集 / 加藤亜紀
地図 / 小野寺美恵
デザイン / 株式会社カチドキ
撮影 / 渡部 聡 (p.17)
料理アシスタント / いしづあきこ
スタイリスト / 野口明日香
営業 / 佐藤真一郎 川島早智
校正 / 東京出版サービスセンター
編集人 / 後藤隆之 発行人 / 園部 充
発行所 / 株式会社ABCアーケ

©ABCARC 本誌掲載記事・写真・イラスト等の
無断複写(コピー)・複製・転載を禁止します。

ヤマトタケル伝説と伝承ゆかりの地 走水神社

日本武尊と弟橘媛命を祀った
走水神社はその伝説に由来する。



走水神社 ヤマトタケルが東征の途中で立ち寄り、村人に冠を与え、村人がそれを埋めた上に社を建て、タケルを祀ったのが神社の始まりとされている。



走水神社
横須賀市走水 2-12-5 ☎046-844-4122
問い合わせ時間 / 9:00~15:00
アクセス / 電車・バスの場合
京急線「馬場海岸駅」から
観音崎行きバス「走水神社」下車



「武者かみ 一人人組合 南伝二 日本武尊と乙橘媛」

幕末に作られた錦絵に描かれたヤマトタケルとオトタチバナヒメ。ヤマトタケルは景行天皇の皇子で、九州のクマソを平定、東征を行う。大和に帰る途中で命を落とし、白鳥になったと伝わる。オトタチバナヒメは、ヤマトタケルの妻で、夫の危機を身を投じて救った。東日本を東・吾妻(あずま)というのは、オトタチバナヒメを忘れることができないうヤマトタケルが、「吾妻はや」(あが妻よ)と嘆いたことに由来するという。

国立国会図書館蔵

ヤマトタケル伝説に由来する 走水神社の成り立ち

横須賀市走水にある走水神社は、日本武尊と弟橘媛命を祭神としている。創建の由緒は、祭神からわかるように、『古事記』『日本書紀』にみえるヤマトタケル伝説に由来する。

景行天皇の皇子ヤマトタケルは、天皇の命によって九州のクマソを征討したのち休む暇もなく東国遠征を命じられる。相模まで来たヤマトタケルはここから海路を上総へ渡ろうとしたが、海が荒れ船が転覆しそうになる。このとき、妻のオトタチバナヒメが犠牲となって入水して海で静め、一行は上総へ渡ることができた。その7日後、オトタチバナヒメの櫛が岸に流れついたので墓を造ってこれを納めたというのである。

神社の縁起では、ヤマトタケルが上総に向かう際に土地の人に与えた冠を石櫃に収め土中に埋め、その上に社を建てたのが走水神社の始まりとする。また、オトタチバナヒメの櫛についても、流れついた御所ヶ崎に社を造り櫛を納め橋神社としたのを、明治18年(1885)に走水神社の境内に移し、明治42年(1909)にいたって走水神社に合祀した。走水神社の地名となっている走水とは、現在の浦賀水道のこととされ、二浦半島と房総半島を結ぶこの水道は海流が走るように速いことから名付けられた地名である。

歌碑や舵の碑などが立ち並ぶ 走水神社の境内

走水神社の境内には、この神社ならではのものがみられる。そのひとつは、オトタチバナヒメの歌碑である。この歌は、『古事記』にみられるもので、オトタチバナヒメが入水の際に詠んだとされる。内容は「さねさし 相模の小野に 燃ゆる火の 火中に立ちて 問ひし君はも」というもので、ヤマトタケルが走水にくる前に焼津でだまし討ちにあい野火によって殺されそうになったとき、オトタチバナヒメの安否を心配したエピソードを思い出して詠んだ恋歌である。また、舵の碑も走水神社ならではといえる。これは、ヤマトタケル一行が、無

事に東京湾の横断に成功したことになむもので、旅の安全・海上守護の思いがこめられている。

ユニークなものとしては、庖丁塚があげられる。これは、地元の漁師大伴黒主がヤマトタケルにハマグリ料理を献上したという故事によるものである。包丁や鳥獣の供養のためのものであり、今年5月5日に古くなった包丁などの供養祭がおこなわれている。庖丁塚にちなんで包丁式が披露されることもある。包丁式は、古来の作法にのっとりて料理を作る儀式である。烏帽子・直垂の料理人が右手に長い包丁、左手に真魚箸を持ち、まな板にのった魚に手をふれることなく料理を作る。まさに走水神社らしい神事といえる。



オトタチバナヒメの歌碑
オトタチバナヒメが入水した際に詠んだとされる歌が刻まれている。東郷平八郎や乃木希典などが発起人になり、明治43年(1910)に建立された。

舵の碑

昭和50年(1975)、オトタチバナヒメを顕彰し、海の安全と平和を祈るために建てられた。



水神社
走水は水との関わり合いの深い地であるため、水を祀った神社が走水神社境内にある。水の化身である河童が遭難した人を助けたなどの伝承も残っている。

この地に住み着いていくという 河童を祀る水神社

河童はまぎれもない妖怪であるが、頭に皿をのせ、緑色した風貌のせいか、人びとに人気があり、各地に伝承を残している。神奈川県内にも茅ヶ崎市の「河童徳利」や秦野市の「かっぱ火やろう」など多くの伝承がみられる。走水神社にも河童にまつわる由緒がある。本殿の裏にある水神社がそれであり、河童大明神を祀っている。かつて、この地は樹木におおわれた清流があり、河童が住み着いていたという。

走水神社には、いまも湧き水があり、その源は富士山だとも伝えられている。言い伝えでは、走水に津波が押し寄せた際、いたずら好きの河童たちが、いつも迷惑をかけている村人への恩返しとして津波に立ち向かい、村人を守ったことから祀るようになったとされている。



三社並ぶパワースポット
三社とは、天照大御神(あまてらすおみかみ)を祀る神明社、須佐之男命(すさのおのみこと)を祀る須賀神社、建御名方神(たけのみかたのみこと)を祀る諏訪神社のこと。かつて神明社は伊勢山崎に、諏訪神社は御所ヶ崎にあったが、明治18年(1885)から須賀神社とともに走水神社で祀るようになった。

武将三浦氏とは何者なのか？横須賀「鎌倉」旅

平安時代からこの地に住み着いて支配してきた三浦氏。源頼朝に味方することで出世の糸口をつかんだ。横須賀には数多くの三浦氏にまつわる史跡が残っている。これらの史跡を巡れば三浦氏の足跡を辿ることができるだろう。



三浦氏ゆかりの史跡案内マップ

源頼朝と共に戦い、鎌倉幕府の設立に貢献した三浦一族は、三浦半島を支配していた。横須賀には、その史跡が数多く残っている。激動の時代を生きた相模国三浦のものふの足跡を辿る。

平安時代より三浦郡を支配 源頼朝の拳兵に参加した三浦氏

三浦氏は、桓武平氏の流れをくむといわれる相模国の豪族である。平安時代には、今の横須賀市を含む相模三浦郡を支配し、三浦介を称した。三浦氏が更に飛躍する契機となったのが、治承4年（1180）8月の源頼朝の拳兵に加勢したことであろう。三浦氏は、頼朝軍に合流しようと、衣笠城を出陣するが、暴風雨

による川の増水により間に合わず。頼朝が石橋山合戦で敗退した事を知り、城に帰還した。ところが、平家方により衣笠城が攻撃され（治承4年（1180）衣笠合戦）、老齢の三浦義明は城を枕に討死するという悲劇に見舞われる。

義明は死の間際に「私は幸いにも源氏の再興の時に際会することができた。これを喜ばずにいられようか。私の歳は既に八十を越えている。もう先はない。いまは、この老いたる命を頼朝様に捧げて、子孫の勲功として残したいのだ。お前達は、急いで立ち退いて、頼朝様の行方を尋ねよ」（鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』）と遺言したという。

城を脱出した子の三浦義澄らは、安房国で頼朝と合流。その後、鎌倉入りした頼朝の重臣として活躍する。建久3年（1192）7月、頼朝の征夷大將軍への任命文書を、勅使から受け取る役を命ぜられた義澄は、他の御家人達の羨望的であったろう。頼朝死後、義澄は若き鎌倉殿・源頼家を支える宿老の1人となっている。義澄の子・三浦義村は、父の死後、執権・北条氏と結び、鎌倉幕府の有力御家人として重きをなしていく。従兄弟の和田義盛が北条氏に敵対した時（建暦3年（1213））和田合戦も、義村は北条氏に味方した。元仁2年（1225）、

住吉神社

火事により、由緒書きが失われてしまったものの、1000年以上の歴史を持つとされている。衣笠合戦の際に三浦氏が戦勝祈願をしたという。



浄林寺馬頭観音堂

三浦義澄が源頼朝に献上した名馬池月（にまつ）の伝承が残る。今でも競馬関係者などが参拝するといふ。



安房口神社

ヤマトタケル伝説に由来する古社。鎌倉幕府に大事があつた時には、三浦義澄に代参させたと伝わる。



三浦義澄の墓

墓のあった薬王寺は、明治9年（1876）に廃寺となり、現在は三浦義澄の墓だけが残されている。



横須賀市内に残る 三浦氏の史跡を巡る

続いて横須賀市に残る三浦氏関連の史跡を紹介しよう。満昌寺は、頼朝が三浦義明の供養のために建立したとされ、同寺に残る木造の三浦義明坐像は国の重要文化財にもなっている。義明が自害して果てた衣笠城址も横須賀市に残る。深山川・大谷戸川が堀の役目をしていたと考えられていて、自然を活用した城であった。

和田義盛が父・杉本義宗と叔父・義澄の菩提を弔うために建立した薬王寺（現在は廃寺）の跡には、三浦義澄の墓が残されている。近殿神社は、三浦義村が御祭神として祀られている。このように、横須賀市には、三浦一族の足跡を辿れる史跡が充実しているのである。是非、探訪したい。

浄楽寺

浄楽寺には三浦一族の和田義盛が妻と共に運慶に依頼した仏像5体（国指定重要文化財）が安置されている。いずれも全国にある18体の運慶真作に含まれる。



衣笠城址

三浦氏の祖とされる平為通が、源頼義に従い前九年の戦いで善戦。その恩賞として三浦の地を与えられて、三浦為通と改名した。領地の中心に本城として築かれたのが衣笠城である。



満昌寺

源頼朝が衣笠合戦で戦死した三浦義明の菩提を弔うため、1194年創建したと伝わる。「三浦義明坐像（国の重要文化財）」が祀られている。



近殿神社

三浦氏6代目当主三浦義村を祀る神社。義村は、祖父義明や父義澄とともに源頼朝の拳兵に参加した。すぐそばには父義澄の墓が、近くには衣笠城址などがある。



西叶神社



源氏の再興を願って、
文覚が石清水八幡宮を
勧請したことに始まる。
再興が叶った源氏は、
叶神社を厚く信仰。
源頼朝が奉納したという
蘇鉄など源氏ゆかりの品が残る。

西叶神社

社殿の側に見える蘇鉄は、源頼朝が奉納したとされている。社殿の彫刻は、安房の彫刻師後藤利兵衛による。200点以上の作品は時間を忘れて見入ってしまうほど見事で、後藤利兵衛の出世作とも最高傑作ともいわれている。

横須賀市西浦賀1-1-13 ☎046-841-0179
問い合わせ時間/8:30~17:00
アクセス/電車・バスの場合 京急線「浦賀駅」から
京急久里浜駅行きバス、もしくはJR久里浜駅行きバスで「紺屋町」下車



時と海をこえて東西に分社 船で渡って願いを叶える。パワースポット 叶神社

「七代目市川團十郎の文覚と
五代目松本幸四郎の不動明王」
7代目市川團十郎は、江戸時代を代表する人気役者。
叶神社を開いた文覚が荒行で滝に打たれた逸話は、
何度か歌舞伎で取り上げられたほど有名だった。
東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives

源頼朝に源氏再興を促した文覚が 石清水八幡宮を浦賀に勧請

叶神社の由縁は、上総の鹿野山神野寺(君津市)に参籠した真言宗の僧侶文覚が、養和元年(1181)、源氏再興を祈願して石清水八幡宮(京都府八幡市)を勧請したことに始まるという。文覚は、もともとは摂津源氏に従う渡辺党に属した北面武士で、俗名を遠藤盛遠と云った。北祖空海に傾倒するあまり、承安3年(1173)、空海ゆかりの神護寺(京都市)を再興するために莊園の寄進を後白河法皇に強訴したことが逆鱗に触れ、伊豆に

流されてしまう。この伊豆において、同じく流人となっていた源頼朝に、源氏再興を勧めたとされる。
神野寺は、戦国時代には真言宗の一大道場となっていた。流人の文覚が参籠することができたのは不明だが、もしかしたら、配流になる前から接点があったものかもしれない。
それはともかく、治承4年(1180)に平家に対して兵を挙げた源頼朝は、平家を滅亡に追い込むと、文治元年(1185)には、敵対することになった弟義経を探索するためだと称して、後白河法皇から諸国に守護・地頭を設置する権限

を認められた。『新編相模国風土記稿』によれば、これにより源氏再興の悲願が叶ったというので、以来、叶明神と尊称されるようになったと伝わる。
なお、近代以前の日本は神仏習合であったから、叶神社も真言宗の感徳院が別当寺として統括することとなり、文覚が初代の別当となった。社殿背後の高台は文覚畑あるいは虚空蔵屋敷とよばれていて、文覚の庵あるいは文覚ゆかりの虚空蔵菩薩を祀る堂舎があったとみられる。

鎌倉幕府滅亡後も人々の信仰を集め、対岸に叶神社を勧請

鎌倉幕府の滅亡後も、叶神社は感徳院を別当寺として浦賀の人々の崇敬を集めた。江戸時代に浦賀奉行所が置かれると、江戸湾に出入りする船を船改めをすることになった浦賀は湊町として繁栄し、現在でもそのころに奉納された灯籠などが

残されている。また、天保13年(1842)に再建された本殿・幣殿は総檜造り、拝殿は総樺造りとなっており、建設には3000両(1億2000万円)を費やしたという。社殿の彫刻は、安房の著名な彫刻師である後藤利兵衛の手がけており、そんなところにも浦賀の栄華がしのばれる。
江戸時代には、この叶神社を勧請して、浦賀湾の対岸に新たに神社が創建された。そのため、浦賀湾の西岸に位置するものと、この叶神社を西叶神社、あらたに創建された浦賀湾の東岸に位置する叶神社を東叶神社と呼ぶ。東叶神社にも、源頼朝が伊豆から移植したと伝わる蘇鉄が残されており、西叶神社ともども鎌倉時代からのつながりを感じさせる。なお、分社の経緯については、元禄5年(1692)、浦賀が東浦賀村と西浦賀村に分離したことが契機となったともいうが、はっきりとしたことは分かっていない。



東叶神社

江戸時代に叶神社を勧請して創建。通常1体が口を開いた阿形でもう1体が口を閉じた吽形になっている狛犬が、2体とも吽形なのは、西叶神社と対になっているからだと言われる。

東叶神社

西叶神社と海を挟んで向かいあって建つ。社務所の裏には勝海舟が咸臨丸(かんりんまる)で太平洋を横断する前に水垢離(みずごり)をとったとされる井戸がある。

横須賀市東浦賀2-21-25 ☎046-841-5300
問い合わせ時間/9:00~17:00
アクセス/電車・バスの場合
京急線「浦賀駅」からかもめ団地行きバス、
もしくは観音崎行きバスで「新町」下車



2つの神社を結ぶ浦賀の渡し

乗船時間はわずか3分ほどだが、この航路は「浦賀海道」という横須賀市道。赤い渡し船の愛宕丸は、時刻表はなくボタンを押して利用する。人間だけでなく自転車も料金を払えば乗船可能。
利用時間/7時~17時 料金/大人400円、小・中学生200円、自転車等50円(横須賀市民は大人200円、小・中学生100円) ☎046-825-7144



北条水軍の城として築かれた浦賀城

戦国時代、三浦氏を滅ぼした北条早雲は、海を挟んで対峙する里見氏に備えるために、新しい城を築いた。浦賀城もそうした城のひとつである。

里見氏

中世に安房を支配していた一族。版図を広げるため、海に向かうの三浦半島を虎視眈々と狙っていた。



「八犬伝犬のさうの内 里見義実」

里見義実(よしなり)は安房里見氏の初代とされている人物。義実の安房入国伝説にヒントを得て書かれたのが曲亭馬琴の『南総里見八犬伝』で、江戸時代最も人気の高かった作品であった。

東京都立中央図書館蔵

北条氏

三浦氏を滅ぼし三浦半島を支配下に入れる。安房の里見氏の攻撃に備えるため浦賀城などを築く。



北条早雲

北条早雲は、備中(岡山県)出身。小田原城を拠点に、勢力を広げ、五代目北条氏直の時には、関東一円を支配するまでになった北条氏の礎を築いた。

小田原城天守閣蔵

三浦氏を滅ぼした後三崎城の支城として造られる

戦国時代の三浦半島は、三浦氏の本拠地だった。この三浦氏は、鎌倉時代の宝治元年(1247)におきた宝治合戦で三浦泰村が執権北条時頼に滅ぼされたあと、北条氏に味方した三浦一族の佐原盛連の子孫が、再興したものである。室町時代には、新井城(三浦市)を拠点に東相模を支配下におく勢力となっていたが、戦国時代の永正13年(1516)、三浦義同の時に北条早雲によって滅ぼされてしまった。その後北条氏は、新井城の南方に三崎城(三浦市)をその支城として浦賀城を築いた。

海を挟んでならみ合う里見氏との緊張が高まり重要視される

浦賀城は、浦賀湾に面した海城であり、すでに三浦氏の時代に、三浦一族の横須賀氏によって築かれていた可能性もある。三浦半島を支配下においた北条氏は、房総半島への進出を図るようになっており、安房の里見氏との緊張が高まっていた。そのため、浦賀城は北条水軍の基地として、重視されたのである。ちなみに、里見氏の本城は、房総半島南端に位置する稲村城(館山市)だったが、浦賀城の対岸には造海城(富津市)や金谷城(富津市)などが築かれて、里見水軍の拠点となっていた。

大永5年(1525)、里見義堯(よしたか)によって率いられた水軍が房総半島から三浦

半島に攻め寄せてきたとき、北条早雲の跡を継いでいた子の北条氏綱は、三浦沖で里見水軍を迎え撃つ。このとき、北条水軍は、浦賀城から出撃したものかもしれない。北条水軍は三浦沖の海戦に敗れ、里見水軍に鎌倉への上陸を許してしまうが、鶴岡八幡宮が兵火に罹り焼失したことで、里見水軍は撤退した。源氏の末裔と称する里見氏にとつて、八幡宮の焼失が不吉と判断されたためという。

北条氏の里見氏攻撃の最前線基地として機能する

この段階では、北条氏が押されていたが、北条氏綱の跡を継いだ子の氏康は、逆に房総半島への侵攻を計画しており、自ら浦賀城に入っていたらしい。しかし、弘治2年(1556)、北条氏の機先を制するため、里見義堯の子義弘が三崎城に攻め寄せた。これを三浦半島南端の城ヶ島で撃退した北条氏が、以後、里見氏を圧迫していく。

永祿7年(1564)の国府台合戦で里見義堯・義弘父子を破った氏康は、浦賀城に船や武器を集め、渡海の準備を進める。こうして、永祿10年(1567)、氏康の命を受けた子の氏政が満を持して房総半島に渡海したのだが、三船山(君津市)での決戦で里見義弘に大敗を喫してしまう。

このうち、北条氏と里見氏との戦いは膠着し、天正5年(1577)、ついに両氏は和睦した。この時点で、浦賀城の役割も失われ、廃城になったようである。

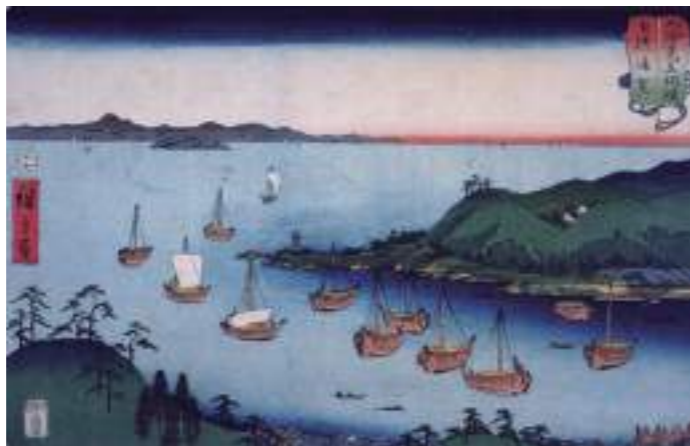
浦賀城址

北条早雲の孫北条氏康が里見氏に備えて築いたとされるが、三浦氏の時代にあったという説もある。城跡は、東叶神社の裏手にあり、土塁や空堀などが残る。城跡からは浦賀水道や房総半島が一望できる。

山海見立相撲 相模浦賀

初代歌川広重が晩年に全国各地の名所を描いたものの1枚。タイトル部分が相模の行司が使う重配の形をしていることからこの名で呼ばれている。

横須賀市自然人文博物館蔵



浦賀港

アメリカからやって来たペリーが来港したことで有名。浦賀水道に面したところに位置しているが、水深が浅く、狭い上に混み合う浦賀水道の航路を通らずに外洋に出られるため、古くから注視されていた港であった。



勝海舟断食の碑

浦賀城址内には、勝海舟が咸臨丸で太平洋を横断する前に東叶神社に参詣し、境内の井戸で水垢離を済ませ、断食修行を行った跡がある。



北条氏と里見氏の拠点



(図説 横浜の歴史|横浜市刊より作図)

浦賀城址(東叶神社の裏)

横須賀市東浦賀2
アクセス/電車・バスの場合
京急線「浦賀駅」からかめ団地行きバス、もしくは観音崎行きバスで「新町」下車



藤村の『夜明け前』から 横須賀を紐解く

自身の父親をモデルにして書かれた『夜明け前』。幕末を舞台としたこの作品では、ペリー来航の直後の横須賀の様子が描かれている。『夜明け前』を手掛かりにして横須賀を巡ってみよう。



幕末に撮影されたと思われる浦賀の風景

日本を訪れた外国人のために作られた写真で、白黒で撮影されたものに、着色している。藤村の父はこのようなのどかな風景を目にしたのだろうか。
長崎大学附属図書館蔵



島崎藤村

中山道の宿場町馬籠(岐阜県中津川市)で本陣などを務めた旧家に生まれる。教鞭をとるかたわら詩集『若菜集』を発表。のちに小説家に転身し、『破戒』『夜明け前』などを執筆した。
国立国会図書館蔵



『夜明け前』初版本

昭和4年(1929)から昭和10年(1935)まで雑誌に連載され、歴史小説として高い評価を得た。
日本近代文学館蔵

島崎藤村の名作『夜明け前』とはどんな作品なのか

「泰平の眠りをさます上喜撰(蒸気船) たった四盃で夜も寝られず」と狂歌で詠まれたペリー艦隊は、嘉永6年(1853)に横須賀の浦賀に来港した。幕末維新の起点となったこの横須賀には、製鉄所が造られるなど近代日本の発祥の地となったが、それ以前の牧歌的な雰囲気を知ることが叶わない。

ところが、島崎藤村の小説『夜明け前』には、ペリーが来航した頃の浦賀を描いた箇所がある。それを紹介する前に、まずはこの大作を概観しておこう。『夜明け前』は、中山道(馬籠宿)本陣・庄屋・問屋を兼ねた青山半蔵(モデルは藤村の父正樹)の数奇な生涯を中心に、幕末維新期の動乱を描いた歴史小説である。

半蔵は平田派の国学に心酔し、封建制度の抑圧から脱することを望み、それが叶はずの王政復古に狂喜した。しかし維新後は何事も西欧化に流れ、しかも庄政は継続し神道も軽視される風潮に、半蔵は大きく失望した。次第に狂気に取り憑かれ、菩提寺に放火し座敷牢に押し込められて悶死する。日本の近代化や文化の連続性の問題を深く考察した、藤村不朽の名作である。

藤村の代表作にして最高傑作に横須賀の様子が登場

第一部第三章の中で、半蔵は青山家の祖先で横須賀にある山上家を公郷村に訪ねた。半蔵が金沢から横須賀行きの船に



赤門

朱塗りであることから地元では「赤門」と呼ばれている。戦国時代には浜代官を、江戸時代には名主を務めた永嶋家の長屋門。藤村や藤村の父もこの門をくぐったのだろうか。門扉部分は江戸時代に造られたと考えられている。



浦賀道を示す円柱

赤門の右側には、江戸と浦賀間の往来が盛んになり造られた浦賀道の道標が立っている。

永嶋家旧蔵古文書

『夜明け前』の主人公のモデルとなった嶋崎禎三郎(正樹の別名)が、永嶋庄兵衛を訪ねた時の礼状が現存している。横須賀市自然・人文博物館蔵

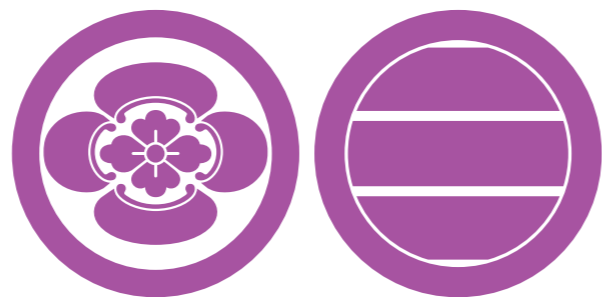


「鎌倉三代記 三浦之助義村」三浦氏繁栄の最盛期を築いた三浦義村は、鎌倉初期の有力御家人で、和田合戦などで活躍し、鎌倉幕府では強い発言力を持つ。永嶋家と島崎家は、この末裔にあたる。
東京都立中央図書館蔵



永嶋家長屋門(赤門)

横須賀市安浦町1
アクセス/
京急線「県立大学駅」下車



丸に木瓜(左)と三浦三つ引き両(右)

いずれも三浦氏の家紋とされる。馬籠を訪れた旅人が、偶然自分と同じこの家紋を使用していることを知り、話すうちに、同じ三浦氏の末裔という言い伝えを持つことがわかった。半蔵は旅人の家に伝わる品を見せてもらうために、横須賀へと旅立つ。

乗った直後の記述は、「当時の横須賀はまだ漁村である。船から陸を見て行くことも生れて初めてのような半蔵等には、その辺を他の海岸に比べて言うことも出来なかったが、大島小島の多い三浦半島の海岸に沿って旅を続けていることを思っていることは出来た。ある岬のかけまで行った。海岸の方へ伸びて来ている山の懐に抱かれたような位置に、横須賀の港が隠れていた」というものだ。この時点では、一漁村に過ぎなかった横須賀の地理的状况を描写している。

半蔵は山上家を訪ねたが、予想とは大いに違い、「長閑なことも想像以上だ。ほのかな鶏の音が聞こえて、漁師たちの住む家々の屋根からは静かに立ちのぼる煙を見ようような仙境だ」と、牧歌的で穏やかな風景を見ることができた。また、茶室の裏山の崖下には「岸へ押し寄せ押し寄せする潮が全世界をめぐる生命の脈搏のように、間をおいては響き砕けていた」とあり、横須賀が世界に向けた日本の前線になることを暗示している。

山上家とは、現存する史跡「赤門」が残る永嶋家がモデルである。永嶋家は鎌倉時代の名門、三浦一族の末裔であり、三浦義政をはじめ永嶋姓を名乗った。その3代目の正義の弟、正胤が木曾に土着してから島崎姓を名乗っており、両家は同じ血族であった。

藤村自身も小説執筆のため、幾度かこの永嶋家を訪れたエピソードが残っている。「夜明け前」の世界をより深く理解するために、横須賀をぜひ訪ねてみよう。

偉人たちの足跡 幕末・明治の史跡を巡る

幕末維新の起点となった
ペリーに関する史跡を巡る

幕末維新の起点は、嘉永6年（1853）6月のペリー来航とするのが妥当であろう。その時、ペリーは横須賀の浦賀に現れ、久里浜に上陸して和親と通商を



ヴェルニーと小栗上野介の銅像

横須賀製鉄所（後の横須賀造船所）の礎を造った、ヴェルニーと小栗上野介の胸像。銅像の設置されているヴェルニー公園からは海を挟んで横須賀造船所跡が望める。



ティボディエ邸

横須賀製鉄所副首長であったティボディエの官舎を再現している。明治2年（1869）頃に建築された本州最古級の西洋館だった外観を再現するだけでなく、館内には、ティボディエ邸から移設した実物の木骨煉瓦造りの壁とトラスがある。



猿島砲台跡

東京湾に浮かぶ猿島は、江戸後期から明治時代にかけて、海防の要地として使用された。現在も残るれんが造りの砲台跡は、明治期に陸軍によって造られたもの。



ペリー上陸記念碑

明治34年（1901）7月14日、ペリーが上陸したのと同じ日に除幕式が行われた。碑文は伊藤博文の筆によるものである。



吉田松陰・佐久間象山相会処の碑

東側の浦賀の渡しに近いに旅館「徳田屋」があった。ここで、吉田松陰と佐久間象山が面会したという。現在、徳田屋の跡付近に碑が立っている。



お龍の墓

坂本龍馬の妻であったお龍は、龍馬の死後、横須賀に移り住み、この地でその生涯を閉じた。墓も横須賀市内の信楽寺にあり、寺にはお龍ゆかりの品が納められている。

幕末・明治の史跡マップ



**よこすか
ルートミュージアム**
他にも横須賀には
近代の史跡、
文化や自然を
楽しめるスポット多数

こちらから
チェック!

世界三大記念艦「三笠」
日露戦争で東郷平八郎が率いる連合艦隊の旗艦としてロシア艦隊を退ける大活躍を見せた。現存する最古の鋼鉄戦艦。
写真提供：彦保存会



千代ヶ崎砲台跡
千代ヶ崎砲台は東京湾要塞を構成した砲台のひとつで、海防の要地として役割を担った。当初の姿を良好に残し、近代の軍事施設に関する遺跡として日本で初めての国史跡の指定を受けた。
横須賀市教育委員会提供



求め、開国を迫るアメリカ大統領の国書を渡した。つまり、この事実から、日本の近代は横須賀から始まったとしても、まったく過言ではないのだ。

久里浜には、明治34年（1901）7月に建立されたペリー上陸記念碑があり、伊藤博文が揮毫している。また、隣接するペリー記念館では、黒船来航を再現したジオラマ模型の展示があり、ペリー上陸に関する資料も拝見できる。

実はペリーの史跡だけでなく、横須賀は幕末維新期の史跡の宝庫である。その中でも、筆者が厳選した必見の名所をご紹介します。ペリー来航時、佐久間象山と弟子の吉田松陰は、具にペリー一行を観察した（時事を論じている）が、その際浦賀を代表する旅館である徳田屋に泊まった。また、これは桂小五郎（後の木戸孝允）が浦賀奉行所与力の中島三郎助から造船技術の教えを受けるため、来訪した際の宿でもあった。現在は、徳田屋跡付近に碑が立っている。

同じく象山の弟子であった勝海舟は、咸臨丸でアメリカに向かう途中、浦賀に立ち寄り、愛宕山公園には「咸臨丸出港の碑」がある。なお、勝は航海の無事を祈念するため、航海・渡航の守護神を祀る東叶神社で断食をし、その際使用したとされる井戸が現存している。

横須賀繁栄のきっかけを作った フランス人技師ヴェルニー

横須賀と外国人の関係は非常に重要で

あり、ペリーだけでなく、フランス海軍の技師ヴェルニーを忘れてはならない。幕府からの要請を受けて、横須賀製鉄所（後の横須賀造船所、太平洋戦争まで横須賀海軍工廠）を完成させ、経営にも責任者として関わった。その功績と製鉄所の意義を顕彰するため、ヴェルニー記念館が建てられた。なお、ヴェルニーと日本側の推進者で幕府官僚だった小栗忠順（上野介）の像がヴェルニー公園内にある。幕末と言え、坂本龍馬であるが、その妻であるお龍は龍馬暗殺後、呉服行商人の西村松兵衛と再婚して横須賀に居住した。明治39年（1906）、66歳で亡くなり、大正3年（1914）に信楽寺に「贈正四位阪本龍馬之妻龍子之墓」と刻まれた墓碑が建てられた。

明治以降日本の歴史上に 大きな足跡を残した史跡

なお、明治以降の史跡としては伊藤博文が明治憲法の起草をした別荘があった夏島に明治憲法起草地記念碑が立ち、日露戦争時の日本海海戦で活躍した戦艦三笠が三笠公園に保存され、船内では日露戦争当時の資料を拝見できる。また、「日本近代郵便の父」である前島密の墓所が浄楽寺にある。

このように、幕末維新、そして近代化が進む明治日本の多様な史跡がまとまって存在する場所は、他にはないのではないか。横須賀は、近現代史を一遍に紐解ける魅力ある街である。

現代風にアレンジ

地元食材を使った 横須賀 開国メシ

嘉永6年(1853)ペリーらを乗せた4隻の黒船がやって来て日本に開国を迫った。その翌年再び日本にやって来た時に、ペリーをもてなした料理を紹介しよう。



「武州横浜於応接所饗応之図」

ペリーが来日したことは人びとの関心を引いたようで、多くの瓦版が作られた。これもそのひとつでペリーを饗応した時の様子が描かれ、上部にはメニューなどが記されている。

横浜中央図書館蔵

ペリーに出された料理とは

ペリーに饗されたのは、本膳料理といって、正式な場面で出される日本料理。いくつかの形式があるが、この時はもつとも格式の高い五の膳まであるものだった。

調理を担当したのは、百川という会席料理茶屋で、横浜や浦賀の料理人も協力してアメリカ艦隊の将兵約300人分と、接待する側の日本人側200人分のおよそ500人分を作った。1人前の料理は90品あり、かかった金額は3両(今の約12万円)だったという。料理は、鯛ひれの吸い物と酒ではじまり、ひらめやメジマグロの刺身、伊達巻、すしなどが並び、土産として鯛の姿塩焼きやかまぼこがついた。

100年早かったメニュー「ペリーさん献立」が面白い

食文化史研究家 永山久夫

ペリー提督たちの食卓に並べられた豪華な料理は魚中心でした。料理は、美しく配膳されていて、日本人が食べたら最高に美味であり、健康にもよく、心もなごやかなるような料理ばかりでした。しかし、時間をかけ、船でやってきた異国の人たちですから、食中毒のこわさに生魚料理を見ただけで軽い拒絶反応をおこしていた可能性があります。煮物や揚げ物料理はおいしいと言ってにこにこし、刺身やなます類は嫌厭されているのです。

100年早かったのです。今だったら、ペリーたちに供された饗宴料理を見て、「これこそ、長寿の国二



守屋齋コレクション、広島県立歴史博物館蔵・画像提供

永山先生から

提言
一、ペリー提督の饗膳メニューの特徴を生かし、現代的に再構成した料理を創作し全国に発信する。
一、地の物を活用し、その土地に行かなければ食べられないサブプライズなよこすか料理を生み出す。

一、地物の活用し、その土地に行かなければ食べられないサブプライズなよこすか料理を生み出す。

一、地物の活用し、その土地に行かなければ食べられないサブプライズなよこすか料理を生み出す。



ペリーの子孫が食べたらこんなことをいうかも。

絵・文／永山久夫
食文化史研究家。古代から明治時代までの食事復元研究の第一人者。長寿食や健脳食の研究も行う。

きじま流

ペリー饗応料理

横須賀でとれる野菜や海産物を中心に、饗膳メニューの特徴を生かして現代風に大胆アレンジ!



会食後の肝臓機能をサポート!

ふわとろかきたま海苔スープ

焼海苔:1枚 卵:1個 長ネギ:1/2本 サラダ油:大さじ1/2
④水:300ml 顆粒コンソメ:小さじ2 塩:少々 胡椒:少々

- ① 長ネギは斜め薄切りにする。
- ② 鍋に油を入れて長ネギをしんなりするまで炒める。
- ③ ④を入れ、煮たら海苔をちぎって入れて煮る。
- ④ 溶き卵を流し入れてかきたまにする。

ひと口サイズで食べやすい!

ヘルシー衣のアジ麩フライ

アジ(3枚おろしにしたもの):2尾分
木綿豆腐:100g 小麦粉:大さじ2
溶き卵:1個分 麩:20g 揚げ油:適量
④片栗粉:小さじ2 砂糖:小さじ1 塩:小さじ1/3

- ① 麩を袋に入れて粗く叩き潰す。
- ② 豆腐を厚手のペーパーに載せてフォークなどで潰してからペーパーをもう1枚載せて、巻いて水気を絞る。
- ③ アジの皮をのぞいて粗く刻んで、フードプロセッサーに入れ、④を加えて攪拌する。
- ④ 豆腐も加えて更に混ぜる。
- ⑤ 6~8等分に丸めて小麦粉をまぶし付け、溶き卵を絡めて、麩をまぶし付け、5分程休ませる。
- ⑥ 揚げ油を中温に熱して、アジを入れて5~6分程揚げる。油をきる。

きじまりゅうた

料理研究家。料理研究家一家の三代目。NHK「きじまりゅうたの小腹すいてませんか?」などテレビ雑誌を中心に活躍中。



きじまりゅうたさんへ

慣れない外国(日本)の料理でもてなされても、あまり食べられなかったペリー。横須賀の美味しい食材を、日本食に慣れていない海外の人にも食べやすくしてみました。



長旅のミネラル補給にもピッタリ! シャキシャキカラフルコールスロー

キャベツ:100g 大根:100g カラフルニンジン:50g
④水:大さじ2 塩:小さじ1
⑥マヨネーズ:大さじ3 砂糖:小さじ1 粗挽き黒しょう:少々

- ① キャベツは幅5mm、大根は皮をむいて長さ5cm、幅5mmの細切りに、ニンジンは皮をむいて長さ5cm、幅2~3mmのそれぞれ細切りにする。
- ② 野菜を袋に入れて④を入れて30分程おき、水気を絞り、⑥を混ぜる。

よこすか野菜

横須賀では、キャベツや大根、カボチャなどおなじみの野菜だけでなく、イタリア料理やフランス料理で使われるカラフルで珍しい西洋野菜など様々な野菜が1年を通じて生産されている。こうした野菜は、市内の飲食店で楽しむことができ、さらに定期的に行われる市内の直売イベントなどでも購入することができる。

ホームページでは、「よこすか野菜ガイドブック」や魅力発信動画、直売イベントなどが見られます!



県指定重要文化財

文化財	種別	名称	所在地	所有者(管理者)
有形文化財	彫刻	木造毘沙門天立像	大矢部5-9-20	清雲寺
有形文化財	彫刻	木造薬師如来坐像	野比1-51-1	最寶寺
有形文化財	歴史資料	東京湾第三海堡構造物	平成町3-23-1、夏島町2	横須賀市
有形文化財	考古資料	横須賀市吉井貝塚出土の縄文時代早期の骨角牙器・貝製品	深田台95(横須賀市自然・人文博物館)	横須賀市
民俗文化財	有形	鴨居の漁撈用具コレクション	深田台95(横須賀市自然・人文博物館)	横須賀市
民俗文化財	無形	虎踊	西浦賀4(浜町)	保存会
記念物	史跡	茅山貝塚	佐原5-33	個人
記念物	史跡	吉井貝塚を中心とした遺跡	吉井1-564他	横須賀市
記念物	天然記念物及び名勝	天神島、笠島及び周辺水域	佐島3-1457-1～3、1458、1457-1先、公有海面	横須賀市管理
記念物	天然記念物	はまおもと	佐島3-1457	横須賀市管理
記念物	天然記念物	大松寺林	小矢部3-1082	大松寺
記念物	天然記念物	白髭神社の社叢林	野比2-261-1	白髭神社
記念物	天然記念物	叶神社の社叢林	東浦賀2-59-1他	叶神社
記念物	天然記念物	三島社の社叢林	武1-2749-1他	三島社

東京湾第三海堡構造物



はまおもと



国登録有形文化財

文化財	種別	名称	所在地	所有者(管理者)
有形文化財	建造物	横須賀市上下水道局走水水源地煉瓦造貯水池	走水1	横須賀市上下水道局
有形文化財	建造物	横須賀市上下水道局走水水源地鉄筋コンクリート造浄水池	走水1	横須賀市上下水道局
有形文化財	建造物	日本基督教団横須賀上町教会・付属めぐみ幼稚園	上町2-43	日本基督教団横須賀上町教会
有形文化財	建造物	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室I	西逸見2-10	横須賀市上下水道局
有形文化財	建造物	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室II	西逸見2-10	横須賀市上下水道局
有形文化財	建造物	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室III	西逸見2-10	横須賀市上下水道局
有形文化財	建造物	横須賀市上下水道局逸見浄水場緩速ろ過池調整室IV	西逸見2-10	横須賀市上下水道局
有形文化財	建造物	横須賀市上下水道局逸見浄水場配水池東入口	西逸見2-10	横須賀市上下水道局
有形文化財	建造物	横須賀市上下水道局逸見浄水場配水池西入口	西逸見2-10	横須賀市上下水道局
有形文化財	建造物	横須賀市上下水道局逸見浄水場ベンチュリーメーター室	西逸見2-10	横須賀市上下水道局
有形文化財	建造物	旧澤田家別荘	秋谷2	個人
有形文化財	建造物	高橋家住宅	本町2	個人
有形文化財	建造物	西崎家住宅(船越町洋館付き住宅)主屋	船越町3	個人

横須賀市の 国指定、県指定、国登録文化財一覧

横須賀市の国および神奈川県による、指定・登録等の文化財を一覧にご紹介します。

※一般公開していない文化財も含む。訪れる際には事前に確認を。 写真提供/横須賀市教育委員会



三浦安針墓



猿島砲台跡



スチームハンマー

国指定重要文化財

文化財	種別	名称	所在地	所有者(管理者)
有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来及び両脇侍像(運慶作)	芦名2-30-5	浄楽寺
有形文化財	彫刻	木造菩薩立像	岩戸1-4-9	満願寺
有形文化財	彫刻	木造地藏菩薩立像	岩戸1-4-9	満願寺
有形文化財	彫刻	木造不動明王・毘沙門天立像(運慶作)	芦名2-30-5	浄楽寺
有形文化財	彫刻	木造三浦義明坐像(御霊明神社安置)	大矢部1-5-10	満昌寺
有形文化財	彫刻	木造観音菩薩坐像	大矢部5-9-20	清雲寺
有形文化財	彫刻	木造十二神将立像	横浜市金沢区	曹源寺(県立金沢文庫に寄託)
有形文化財	歴史資料	スチームハンマー(旧横須賀製鉄所設置)	東逸見町1-1(ヴェルニー記念館)	横須賀市
民俗文化財	有形	三浦半島の漁撈用具	深田台95(横須賀市自然・人文博物館)	横須賀市
記念物	史跡	三浦安針墓	西逸見町3-57	文化庁(横須賀市管理)
記念物	史跡	夏島貝塚	夏島町2	文化庁(横須賀市管理)
記念物	史跡	東京湾要塞跡 猿島砲台跡、千代ヶ崎砲台跡	猿島1、西浦賀6-17他	横須賀市、文化庁(横須賀市管理)

市内で繁殖している地域を定めない国指定天然記念物

文化財	種別	名称	所在地	所有者(管理者)
記念物	天然記念物	ミヤコタナゴ	鴨居4-1120	観音崎自然博物館

国選択無形民俗文化財

文化財	種別	名称	所在地	所有者(管理者)
民俗文化財	無形	横須賀の虎踊	西浦賀、野比	各保存会



虎踊

横須賀市に関わりのある国指定重要文化財

文化財	種別	名称	所在地	所有者(管理者)
有形文化財	考古資料	神奈川県夏島貝塚出土品	東京都千代田区神田駿河台	明治大学

みつけて、つなげて、出かけよう。

さあ、出かけよう。あなただけの「ルートミュージアム」へ。



B01 よこすか近代遺産ミュージアム ティボダイエ邸



B03 猿島



B05 世界三大記念艦「三笠」



C04 浦賀ドック(住重旧浦賀工場1号ドック)



C02 観音埼燈台



C09 燈明堂



C13 横須賀美術館



E01 ペリー上陸記念碑



よこすかルートミュージアムとは、横須賀に点在する開国から近代につながる歴史、文化の見どころや自然豊かなスポットを「サテライト」と呼び、それらを「ルート」でつなぐことで市内全体を大きな「ミュージアム」としてとらえた横須賀の新しい楽しみ方です。

よこすかルートミュージアム
公式サイト

<https://routemuseum.jp/>

日本語 ENGLISH



多言語での紹介サイト

<https://www.guidoor.jp/lp/4566>

中文(繁體) 中文(简体) 한국어
Français ภาษาไทย
Español Bahasa Indonesia



横須賀中央駅からすぐ！
横須賀市観光案内所

横須賀の情報発信拠点として、最新の観光情報をお届けしています。
各種観光パンフレットもご用意しています。
☎ 046-822-8301 🕒 9:30~17:00 📅 12月31日~1月3日



FREE 無料

ABCアーク